

唐丹の民話・3話「荒川地区」



平成19年3月

唐丹・愛ちゃんネットパソコンクラブ

目 次

—長者の桐木—

唐丹民話の再話著作にあたって	2
1. 熊野川上流に住む長者	3
2. 突然の別れ	3
3. あざやかな桐の花いずこから	4
4. 桐の花は、岩手県の花 (参考)	5

唐丹民話の再話著作にあたって

唐丹公民館の自主パソコンクラブ（設立：平成17年6月／名称：唐丹・愛ちゃんネットクラブ）では、パソコンによる文章作成を習得した証と民話を伝承する狙いを含めて民話の再話著作活動を実施しました。

文章作成の教材は、釜石民話の会（平成2年発足）の機関紙「釜石民話」を活用させていただきました。

この釜石民話の中から、唐丹に関りかつ再話できるものを選び、その根底にあるものを変えないことを基本に「見やすく」「読みやすく」「分かりやすく」するために小見出しを付け、写真や絵図などを挿入し、できるだけ関連する歴史や実話を織り込みながら作成しました。

いつの日か、この冊子が誰かの目に留まり、唐丹にもこんな話があったのかと唐丹の「いにしえ」に想いをはせる一助になれば幸いと思います。

おわりに、この活用させていただいている民話は、釜石民話の会会員でありました唐丹町片岸の加藤ムツさんが採録（聴き取り）したものであり、第1集から第6集に掲載の民話の数は92編を数えます。

加藤ムツさんの「民話を伝承したい」と言うこの熱意と努力に敬意を表するとともに、故人となられました加藤ムツさんのご冥福をお祈り申し上げます。

なお、この物語の「**長者の桐の木**」は、釜石民話第1集「**長者の桐木**」を再話著作したもので、その原文は次のとおりであります。

唐丹の荒川部落に五葉山田の神を水源とするくまの川に伝説があります。熊の川上流にいつの時代にどこから来たのか、長者が住んでいて桐の花のようなやさしい姿の愛娘と幸福に暮らしていました。長者は娘の嫁入り道具の箆笥の材料にと、屋敷内に桐木を植えましたが、長者はある事情が出来て、この地を去らねばならず桐の木の根元に「金の宝物」を埋めて旅立ったのです。（桐木は長年の歳月を経ると、木肌も葉も、ほかの広葉樹と見分けが困難になる木だといわれています。）

山に住む人びとは、春、五月に桐の花の咲く頃、上流から色あざやかな桐の花が流れてくるのを見ると、さて、その木がどこにあるか夢を追い、川上の五葉山深く探し求めるがいまだに見つからないとのこと。

長者の桐の木

1. 熊野川上流に住む長者



(五葉山・大船渡方面から望む)

唐丹村荒川に、五葉山を水源として流れる熊野川があります。この熊野川の上流に、いつどこから来たのか、長者が住んでいました。

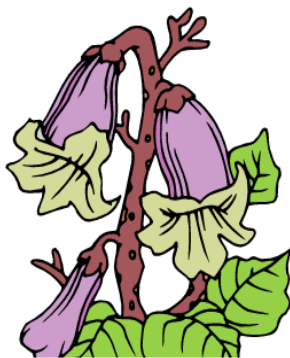


長者は、桐の花のようにきれいで、優しい愛娘と一緒に幸せに暮らしていました。



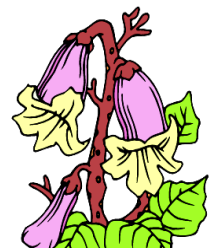
2. 突然の別れ

長者は、いつの日か、可愛い娘がお嫁に行くときに、桐の箆笥(たんす)を作って嫁入り道具の一つにと考え、屋敷の中に桐の木を植えて、良く手入れをして育てていました。



しばらくして、長者は、何事が起きたのかわかりませんが、愛娘共々この村を離れることになってしまいました。

長者は、又この地に戻って来たいと思い、桐の木の根元に「金の宝物」を埋めて旅立ちました。



3. あざやかな桐の花いずこから

その次の年から、桐の花の咲く頃になると、熊野川の上流から色あざやかな桐の花が流れて来るようになりました。



(荒川の桐の古木)

里の人々は、その桐の花を見るにつけ、「さて、その桐の木がどこにあるのか」と夢を追い、川上の五葉山の奥深く探しに行くのですが、いまだに見つからないとのこと。

桐の木は長い年月が経つと、木の肌や葉が他の木と見分けがつかなくなると言われています。



(唐丹町 熊野川上流・流れ来る桐の花)

どんとはれ

4. 桐の花は、岩手県の花（参考）

桐の木は昔から筆筒の最高級材料とされ、軽くて軟らかで色も白く、くるいも少なく、耐火性や吸湿性に優れ、また、葉は除虫用になると言われています。

娘の嫁入り道具にと、畑のほとり等に植えられていたものです。

桐の花は、岩手県の「県の花」でもあります。

県産の桐は、材の光沢が強く淡い紫色をおびて美しいので「南部の紫桐」として知られています。

5月の薫風に甘い芳香を漂わせて、山里の春を飾る桐は、足利時代に遠野の南部家が、大和から苗を移したのが始まりと伝えられています。

（県の花については、市図書館よりの情報。但し、選定根拠不詳）

（参考）の項、おしまい



◎釜石の民話・第1集：長者の桐の木

○話 し 手：伊藤要太さん／川目

○聴 き 手：加藤ムツさん／片岸

●再話著者：上村年恵／片川地区（愛ちゃんネットパソコンクラブ）

●写真撮影者：上村年恵／同上

●校正指導者：新沼 裕／本郷地区（愛ちゃんネットパソコンクラブ）

●再話完成：平成19年3月